

世界経済・金融市場動向(日本)

先月の振り返り

01 日本株式市場

7月の日経平均株価はほぼ横ばいとなりました。月前半は日銀短観において企業景況感の改善を背景に上昇する場面もありました。その後、米国において強い雇用関連指数が発表され金融引き締め長期化観測が再燃した影響から大幅に下落しました。月後半は日銀のYCC運用柔軟化はあったものの円安進行や緩和姿勢の維持から下げ幅を縮小しました。

02 日本債券市場

7月の日本長期金利は上昇(価格は下落)しました。月前半は日銀の金融政策修正懸念が煽り金利は上昇しました。28日に日銀は長期金利をこれまでの上限0.5%から1%を事実上の上限とするYCC政策の柔軟化を決めました。この内容を受けて、長期金利は大きく上昇し約9年ぶりに一時0.605%まで上昇する場面もありました。

経済金融環境

01 日本経済環境

日銀短観6月調査では大企業の業況判断DIが製造業・非製造業ともに上昇、先行きに関しても改善しました。6月の消費者物価指数(生鮮食品を除く)は前年比3.3%上昇と高い水準となりました。同日に発表された日銀の経済・物価情勢の展望レポートでは2023年度の見通しを上方修正した一方、2024年度の見通しについては若干の下方修正をし金融政策を裏付ける内容となりました。

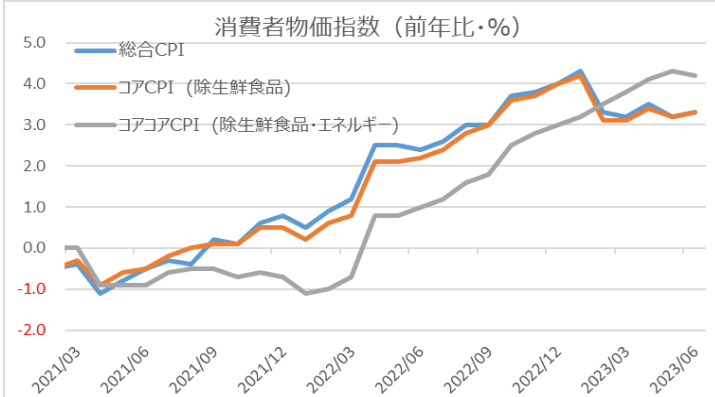
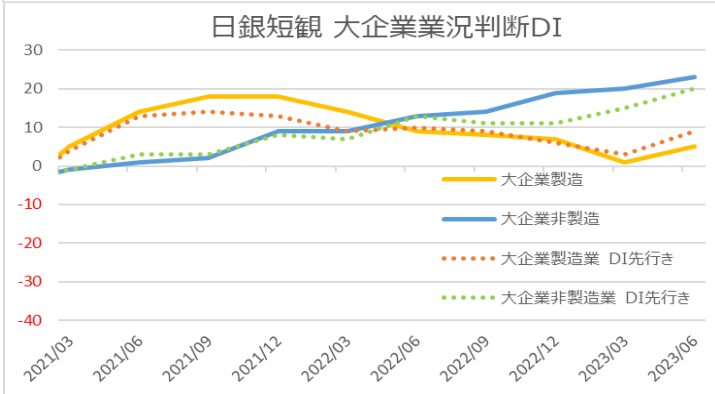
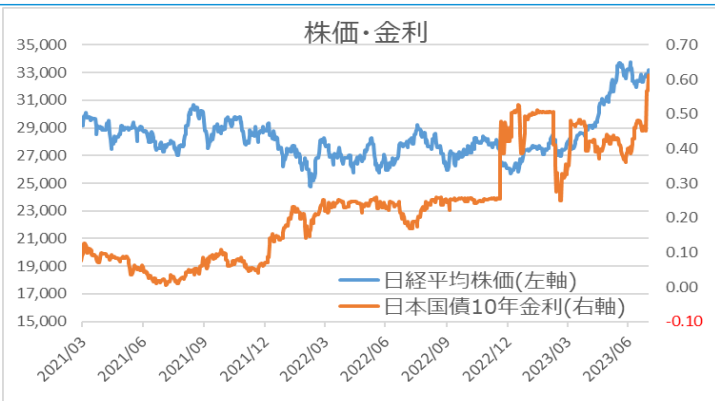
今後の見通し

01 日本株式市場

日銀の緩和的姿勢は維持されるものの、YCC運用の柔軟化を受けた日米金利差縮小による円高警戒感や、スマートフォンやPCなど民生品の最終需要の回復見通しが立っていないことによる業績回復の遅れなどから、株価は上値の重い展開を想定します。一方で、中国政府による一段の景気刺激策が導入された場合や想定以上の円安が進行した場合は株価は強含むと考えます。

02 日本債券市場

日銀の長短金利操作運用柔軟化により指値オペ上限の1%と、金利の上昇スピード2点を意識しながら国内金利は緩やかに上昇していく展開を想定します。一方で、ここもと国内企業物価が鈍化傾向を示していることからインフレ目標達成が再び遠ざかるような場合や世界的に金融引き締めの累積的效果が顕在化し、海外金利が低下する局面では国内金利にも低下圧力がかけると想定します。



(注) データ期間：2021/3/31～2023/7/31
(出所) Bloombergのデータを基にFDAlco作成

■当資料は、情報提供を目的として、FDAlcoが作成したものです。特定の運用商品等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料にもとづいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績および将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信憑性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。

世界経済・金融市場動向(米国)

先月の振り返り

01 米国株式市場

7月のS&P500指数は上昇しました。上旬は堅調な経済指標の影響から金利が上昇したことが嫌気され株価は下落しました。中旬は銀行決算が堅調な結果であったことやインフレ指標の鈍化等が好感され大きく上昇しました。下旬にはFRBが追加利上げを決めたもののサプライズがなかったことや市場予想を上回る業績を発表する企業が多く株価は4,500pt後半まで上昇しました。

02 米国債券市場

7月の米国長期金利は上昇(価格は下落)しました。上旬は強い雇用指標と6月FOMC議事要旨でややタカ派的な内容が確認された影響で金利は上昇しました。中旬は相次ぐ物価指標の下振れを背景にインフレ鈍化期待が高まり金利は低下しました。下旬はGDPにおいて強い個人消費等から米国経済の底堅さが意識されたことや日本銀行のYCC修正観測報道を受けて金利は上昇しました。

経済金融環境

01 米国経済環境

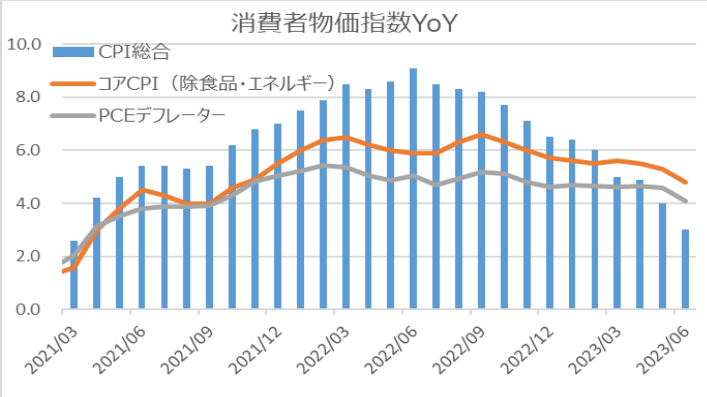
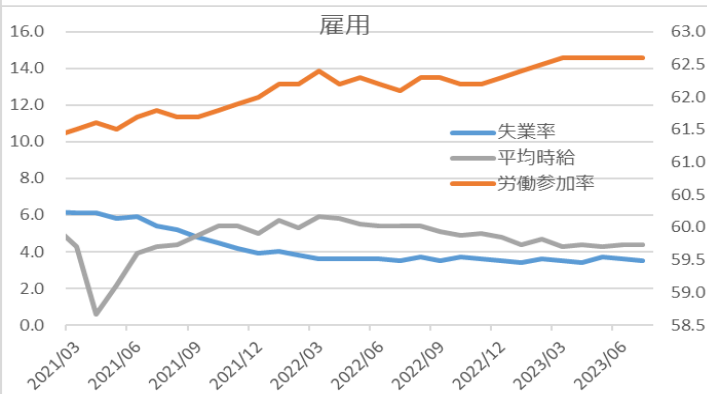
雇用統計では雇用者数の伸びは鈍化したものの依然として高い水準にあり、平均時給は上昇、失業率は低下しました。その他の雇用指標からも総じて労働市場の底堅さが示される結果となった一方、物価指数においては消費者物価指数、生産者物価指数ともに伸びの鈍化がみられました。

今後の見通し

01 米国株式市場

底堅い経済指標や堅調な労働市場から景気のソフトランディング期待が高まりつつあるものの、FRBが金融引き締めスタンスを継続していることや、これまでの利上げの累積的効果や銀行による貸出基準の厳格化の影響など引き続き警戒すべき材料が多く、株価はレンジで推移することを見込みます。

一方で、インフレ鈍化を受けて利上げ停止観測が広まった場合や、企業決算で良好な見通しなどが示されれば株価は緩やかに上昇すると想定します。



(注) データ期間：2021/3/31～2023/7/31
(出所) Bloombergのデータを基にFDAIco作成

02 米国債券市場

足元の堅調な労働市場やソフトランディング期待、米財務省の入札規模拡大などから金利が高止まりする可能性が高いものの、FRBメンバーから利上げ停止を意識した発言も出ていることからさらなる上昇余地は限定的と考えます。一方で、英国では賃上げ機運が依然高いものの金融引き締め効果により経済成長が抑制される状況が継続しています。こうした過度な金融引き締めによって、グローバル景気に下押し圧力が強くなった場合は、景気後退懸念から米国金利も低下すると想定されます。



■当資料は、情報提供を目的として、FDAIcoが作成したものです。特定の運用商品等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料にもとづいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績および将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信憑性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。